令和7年度　大田区立南六郷中学校　自己評価　報告書

○　本校の概要　　令和8年3月31日

■生徒数：513名　学級数：15学級（第1学年：5学級　第2学年：5学級　第3学年：5学級）　教員数：30名
「今年度の重点目標と方策」
◎3年間を見通した系統的な指導の推進
（1）基礎学力の定着と学力向上、規則正しい生活習慣が身に付く学校を目指す。（2）生徒一人一人が活躍できる学校を目指す。（3）地域社会に貢献できる生徒を育てる学校を目指す。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート 「自ら進んで授業に参加したり、仲間と協力して学習に取り組んだりすることができている」「運動会やぶどう祭などの学校行事は、楽しく充実したものになっている」「タブレットなど、ICT機器を効果的に活用した授業が進められている」「学校は、地域の力（保護者以外）を子どもたちの教育に活かしている」「学校行事や部活動、委員会などを通して、生徒一人一人が活躍できる教育活動が進められている」のアンケートの肯定的な回答	4：80%以上	4	・生徒が主体的に活動できる授業を目指し、授業改善をさらに図っていく。 ・学校全体で研修を推進しタブレット端末を効果的に活用できるようにする。 ・地域の力を活かす教育については、コミュニティースクールでもさらに検討していく。 ・学校行事や部活動、委員会など生徒が活躍できる場面を作り続ける。	A	6	・成果評価「4」は大変評価できる。今後の改善策として生徒の主体的な活動は自信を育み、学習意欲を高めるものであるため積極的に進めていただきたい。今の地域教育連絡協議会の意見交換では。コミュニティスクールの効果を適切に発揮できるのか不安がある。 ・コミュニティスクールで地域と学校のお互いの問題を共有しあい解決を目指したい。 ・一時タブレットの使用を中止していたが、使用可能になっているのであれば良い方向に向かっていると思う。 ・国際的に見れば、日本は道徳やマナーはあらゆる場所で素晴らしい。学生時代からの教育で大人になってからも身に付くとても良い教育である。 ・運動会・ぶどう祭など共動できいたと思う。 ・もっと地域社会に関心をもってもらいたい。（町会イベント参加など） ・いじめの全国発生件数が小中ともに多くなっている。早期発見、迅速対応を願う。 ・生徒・保護者が満足しているのが一番良い。 ・生徒が主体的に活動できる授業は本当に大切だと思います。 ・成果指標にあるアンケート5項目全てにおいて肯定的回答が80%超えているか。昨年度より上回っているので評価は適切である。 ・成人にとっても難解なテーマで短い学校生活の学習ではと考えるが、、順々と進めることでしょう。コミュニティスクールを多用したいが、地域住民・保護者との意見提供を共にすることは曜日・時間帯で集まるの難しいと思う。
			3：「おおむねできた」と回答した教員が80%以上100%未満であった。						B	6	
			2：「おおむねできた」と回答した教員が60%以上80%未満であった。						C	0	
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1：60%未満			D	0	
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3：70%以上					
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2：60%以上					
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「相手を尊重し、思いやりの心を持ち、学校生活を送っている」「自分には良いところがある」「キャリアパスポートを生かし、キャリア教育がのアンケートに肯定的な回答 英語科の授業アンケートの肯定的な回答	4：80%以上	3	・「特別な教科道徳」を軸に、人権意識を高め、生徒の心を豊かにする教育を継続する。 ・生徒の主体的な活動よりほめる機会を増やし、生徒の自己肯定感を高める。 ・キャリア教育について、保護者へのアナウンスを十分に行えるよう努める。	A	3	・人間の基礎となる尊厳や思いやりの心、人権意識などの肯定的な回答が比較的低い点については大きな課題と言える。特別な教科道徳におけるテーマの選択においてはわかりやすい事例やテーマなどを選択しながら教育を進めていただきたい。 ・将来の役に立つ英語教育をお願いします。 ・道徳講座に参加しましたが、特定の答えを求めずに意見を各々が出し合い、尊重するのは良いと思います。 ・保護者が大変多忙であろうと思うが、普段のわが子をもっと見つめ授業を参加して姿を見てほしい。 ・昨年よりあいさつをしてくれる。授業も聞けるようになった。 ・英語でも国際社会に関心を持ち意見できる人になるような教育を目指してほしい。 ・「思いやり」「良いところがある」も項目で「そう思う」の割合が昨年度から3～4ポイント上がっており評価はおおむね適切である。 ・生徒個々のスキルをさらに向上させることは学習も必須であるが、キャリアパスポートなど地道に記録を続け、見返しをすると良いと思う。
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3：70%以上			B	6	
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2：60%以上			C	3	
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1：60%未満			D	0	
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「きちんとあいさつができている」「きまりを守ろうとしている」「学校での活動を通じて体力が向上している」「生徒の健康面を配慮した教育活動が進められている」「早寝・早起き・朝ごはんの啓発や、年間を通して体力が向上するような取り組みを推進している」のアンケートに肯定的な回答	4：80%以上	4	・教員自ら率先し、自ら進んであいさつができる生徒を増やす。 ・規範意識が高まってきている。その意識を継続できるようにする。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については、各種便りを活用し、保護者への啓発に取り組む。	A	6	・規範意識の高まりについては、学校内にいない我々での実感しており教員の皆様の継続した成果と考える。規範意識の基本はあいさつであり、先生方にも積極的なあいさつをお願いしたい。また、早寝・早起き・朝ごはんについてPTAとも協力しながら進めていただきたい。 ・先生方が楽しく授業を進めていき、生徒の注目をどれだけ引きつけられるか、永遠nn課題として先生方には頑張ってもらい、地域でも応援していきたい。 ・いじめの報告は耳に入ってこない。減少しているか全く分からないが、親しく何でも話せる友達がいることはうれしく思う。 ・タブレット端末、ICT機器の活動ができていた。 ・男子バレーボール部の全国大会出場、おめでとうございます。今後も目標に向かって頑張ってください。地域の宝です。今後も応援させていただきます。 ・大人のやりようをするどく見ているので保護者や教師が模範となれるように態度に注意が必要。 ・生徒一人一人に丁寧に対応してくださっている様子が伝わってきています。朝ごはんはどれくらいの生徒が食べているのかが興味があります。 ・成果指標にあるアンケート5項目において、昨年度より肯定的な回答の割合が上回っており、2項目で「そう思う」の割合が7ポイント上昇しているので評価は適切である。 ・自然とかわす目礼、挨拶はどの国の人も同様のマナーですが、周辺に外国籍の方々が増える今、素直に言葉が出ることが素晴らしいです。根本は健全な家庭は食育を意識してもらいたいことです。
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3：70%以上			B	5	
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2：60%以上			C	1	
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	3							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。	2							
			3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1：60%未満			D	0	

個別目標４ 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「授業は楽しく、わかりやすい」「授業は生徒にとってわかりやすい」「タブレットなど、ICT機器を効果的に活用した授業が進められている」のアンケートに肯定的な回答	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・生徒が進んで授業に参加し、「楽しい」と思えるよう、個別最適化と協働的な学びをキーワードとし、さらに授業改善を図る。 ・生徒への授業アンケートを行うとともに、授業参観週間で保護者や地域の方にご意見をいただく。	A B C D	3 8 1 0	・教育の専門家ではないため、授業力の点についてコメントする立場ではないが、生徒の授業アンケートの結果を踏まえた、生徒に寄り添った授業の実施をお願いしたい。 ・校内での検討を重ねて、授業の質の向上をこれからもお願いします。 ・サポートルームの活用がうまくいっていると感じる。 ・「生徒が進んで授業に参加する」がキーワードだと思う。疑問から考え始め、表現していき、納得していくプロセスを大切にしてほしい。 ・生徒のトレーニングは必要で質の高い教育を目指してほしい。このようにやりがいを持って働ける教師像は生徒にとっても大切。 ・昨年度より「授業はわかりやすい」の項目で「そう思う」の回答割合が11ポイント上昇。「授業は生徒にとってわかりやすい」の肯定的な回答の割合が17ポイント上昇しているので成果目標「3」は低いと感じる。 ・教員間でもお互いに研修を重ねることはとても良いと思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標５ 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「何でも話せる友だちがいる」「生徒や保護者が気軽に相談できる体制が整っている。（教員、スクールカウンセラーなど）」「サポートルームの充実を図り、特別支援教育を推進している」のアンケートに肯定的な回答	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・常に生徒の近くいることを大切にし、寄り添った姿勢を継続することで、いつでも相談しやすい体制をつくる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの意義や活用について保護者にわかりやすく伝えるようにする。 ・生徒・保護者・地域へサポートルーム拠点校として特別支援教育について発信していく。	A B C D	5 6 1 0	・家庭の問題が、生徒の素行の悪さにつながっている事例も多く、保護者に伝える前に、改めて先生方にもスクールソーシャルワーカーの積極的な活用を進めていただきたい。 ・生徒の支えとして担任の先生は大きな存在です。勤務時間の兼ね合いもありますが、引き続き寄り添いをお願いします。 ・運動会、生徒全員が協力し、素晴らしい活躍だと思います。 ・先生が意欲的に取り組んでくれていると思う。 ・誰もが安心して通える学校づくりは大切でその環境は保護者も含めた関りのなかで生まれると思います。 ・成果目標にある3項目の肯定的な回答の割合がほぼ昨年度と変わらず、2項目において80%を下回っているので成果評価は「3」と考える。 ・生徒が早め早めにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの制度を活用するのはとても良いことです。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標６ 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「防災について、普段から家族で話し合っている」「学校からのたより（学校だより、学年だより、保健だよりなど）を読んでいる」「保護者に学校だよりや学年だより、学校HPや緊急連絡システム等で学校の様子を伝えている」「防災について、普段から家族で話し合っている」のアンケートの肯定的な回答	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	2	・「安心・安全」をキーワードとした学校づくりを継続する。 ・実践的な避難訓練の実施により、防災意識を高める。 ・学校HPや緊急連絡システム、tetoruによる保護者連絡機能を活用し、保護者や地域に学校情報の伝達を継続する。	A B C D	2 5 5 0	・残念ながら学校だより等について読みたいと思えるような構成になっていない。読みたくなるような工夫をPTAとも連携しながら研究していただきたい。 ・災害の危険性が高まっているので、より現実的な内容の訓練として体育館での過ごし方などどうでしょうか。 ・防災訓練でも中学生の協力は大きな「力」となる。非常時の災害になった場合は自らのボランティアとなって進んで参加してほしい。 ・もっとICT環境等が整備されていけば、もっと良くなっていくと思う。 ・家庭での日常会話がとても大切と思う。 ・防災については家庭でも話し方が良いと思います。 ・「防災」と「便りを読んでいる」の項目については昨年度と同じく肯定的な回答の割合が50%を下回っているが、「学校の様子を伝えている」の項目では肯定的な回答の割合が16ポイント上昇しているので評価はおおむね適切である。 ・地域住民の避難所にもなっているので、地域住民も含め防災意識を高めることは大切である。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標７ 学校・家庭・地域の連携・協働による地域の核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「PTA活動は充実している」「学校は地域の力（保護者以外）を子どもたちの教育に活かしている」のアンケートの肯定的な回答	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・スムーズにコミュニティスクールスタートができるようにPTA役員や地域の方々とのつながりを大切にし、南六郷中の特色を生かしたコミュニティースクルを構築していく。	A B C D	3 9 0 0	・コミュニティスクールのスタートの際には、地域教育連絡協議会の現メンバーに限らず、過去に南中サポーターで積極的に動いてくださっていた方など南中のために尽力をしてくださった方を入れて、意味の会議体としていただきたい。 ・コミュニティスクールの活動の充実のために南六郷小と連携して、より広い地域での活動の検討をお願いします。 ・小学生の頃は地元のイベントやお祭りに参加しているが、中学生になると参加が厳しいのか、もう少し地域に目を向けてくれるとありがたい。 ・PTA、地域、学校との意見交換の場もあるので上手く活かせていると思う。PTA役員以外の方も入っていると良いと思います。 ・町会行事のお手伝いとして防災訓練の参加をお願いしておりますが、今後も参加していただきたいです。若い力が必要です。 ・地域としては協力をしたいが、学校との情報共有や参加への制限が感じられる。 ・コミュニティスクールは楽しみです。 ・成果目標にあるアンケート2項目において、肯定的な回答の割合が60～70%なので評価はおおむね適切である。 ・地域コミュニティの核となることは望ましいです。コミュニティスクール制度が地域住民・保護者にとって良い交流となればと思う。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2							

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
〇記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す